

埼玉県薬事団体連合会 新年名刺講演会 講演会

日時 ; 2022年1月14日(金) 14:00～15:30

場所 ; 埼玉会館3C会議室

※後日埼玉県薬剤師会のHPを通してYouTubeで配信(2週間程度)

講師 ; 郷土史家 荻野 勝正氏

演題 ; 「渋沢栄一と尾高惇忠」

荻野 勝正氏 紹介

郷土史家。

深谷市文化財保護審議会委員・

竜門社深谷支部監事・

渋沢栄一翁の志 副委員長



渋沢栄一翁が設立に関わった日本煉瓦製造会社の近くに家があり、御祖父様が勤めておられました。ご母堂の実家も煉瓦用の土として田んぼの土を提供しました。

家の床の間には御祖父様が渋沢栄一翁の親戚の尾高家から頂いた栄一翁が徳川家康の遺訓を書いた掛け軸があったそうです。

渋沢栄一、尾高惇忠(渋沢栄一翁の従兄弟)に関して、テレビ・ラジオ出演や新聞の取材を多数受けられています。

NHKテレビ～大河ドラマ「青天を衝け」

NHKテレビ～「首都圏ネット」(6月11日放映)

BSTBS～「にっぽん歴史鑑定『渋沢栄一の従兄弟尾高惇忠と富岡製糸場』」(11月1日放映)

新聞～朝日新聞「はじまりを歩く(日本煉瓦製造)」(6月26日掲載)など

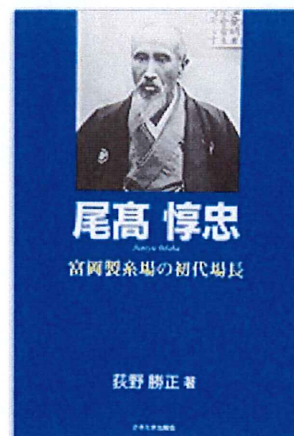
著書

「尾高惇忠－富岡製糸場の初代場長
(もっと知りたい埼玉のひと)」

(2015年7月、さきたま出版会)

この他にも尾高惇忠に関する著書があります。

※尾高惇忠は渋沢栄一の従兄弟にあたり、私塾「尾高塾」を開きました。渋沢栄一も「論語」をはじめとした学問を学ぶとともに尊王攘夷思想の影響を受けました。



渋沢栄一について

令和4年1月14日【金】

◎ 私心を捨てて、国家の繁栄と国民の幸福のために生涯を捧げた男

渋沢栄一の事跡と時代的背景

◎郷里を出るまでの渋沢栄一。7歳＝従兄の尾高惇忠に漢学を習う。知行合一。

19歳＝尾高千代と結婚。24歳＝尾高長七郎倒幕に反対する。尾高家の2階。

◎幕臣への道

24歳＝江戸で一橋慶喜の家臣、平岡円四郎と知りあう。25歳＝渋沢喜作とともに、一橋家に仕官する。

◎勇躍パリへ

27歳＝パリ万国博覧会親善使節の一員として、15代将軍慶喜の弟(昭武)の随行を命ぜられる。尾高平九郎見立て養子とする。(渋沢平九郎)。28歳＝15代将軍喜大政奉還。●渋沢喜作・尾高惇忠＝彰義隊・振武軍結成に参加。飯能の戦いで渋沢平九郎自刃(22歳)。渋沢喜作はさらに函館五稜郭で官軍と戦うも敗れて入牢。後に渋沢栄一の力で釈放となる。

◎帰国して静岡に行く

29歳＝静岡の宝台院に慶喜を訪ね、その姿に嗚咽する。30歳＝静岡藩に「商法会所」を設置する。

◎明治新政府の改革の旗手、

30歳＝租税正＝大隈重信(神々の人柱たれ) 31歳＝官営富岡製糸場設置主任になる。●尾高惇忠＝備前渠取入口変更事件無事解決する。33歳＝渋沢栄一・富岡製糸場完成。●尾高惇忠＝初代富岡製糸場場長。明治6年6月24日英照皇太后と皇后(昭憲皇太后)一行が富岡製糸場へ行啓されます。秋蚕について地元(深谷市周辺)の人とその普及に努めた。◎下野して民間に立つ

34歳＝第一国立銀行の総監役となる。間もなく頭取に就任。35歳、＝松平定信「7分積み金の法＝何十万両巨額」・官庁の建物建築・養育院の創設資金に使われる。37歳＝東京府養育院の事務長(院長)となる。43歳＝妻千代死去。44歳＝伊藤兼子と再婚。

◎平和への祈り

63歳・70歳・76歳・82歳＝日米親善に尽力(4回訪米)88歳＝日米親善・青い目の人形歓迎会を主催。79歳＝徳川慶喜公伝刊行＝汚名挽回と復権を目指す。大正7年1月完成。

渋沢栄一の思想と行動

近代の創造＝山本七平 著

「個人でなく日本自体が不倒翁になるために学ぶべき先人は藍香(尾高惇忠)や渋沢栄一であらう。とまとめている。

藍香＝武装蜂起の「趣意書」その時の視点は

- ①＝制度を変える。②＝封建制を排して郡県制に。③役職の任命はすべて能力順位、能力主義による。④＝1国民が統一された国民国家にしなければならぬ。
- ⑤＝制度を変えることを考えずに閣老を暗殺したり、負傷させたりしても無意味である。
- ⑥＝制度を変えて富国強兵性になってはじめて外国と対等の交渉。

「郡県制と能力順位・能力主義」こそが明治維新の基本だった。

人間が真剣に読書するのは、現実目の前にある問題をどのように把握し、どのようにしたら解決の道があるかを探る時である。

ではなぜ彼らが「不倒」であり得たのか＝一言でいえば栄一も藍香も詩人だったからである。どんな時でも「詩作」という、「自分だけの世界の人間」になり得たということである。

これが現代では失われ、かつ忘れられている点である。幕末から明治人の特質の一つ。

＊新聞から漢詩の投稿欄が消えたのが大正7年。

漢詩＝外国語で詩作することである。

◎日本が不倒翁になるためにわれわれ凡人にできることは、「先人に学ぶ」ことだけである。経済的優位と技術的優位を維持できなければ、どれだけ膨大な軍事力や、政治力を駆使しても、国家の威信も、国民の繁栄も維持していけない時代になるであらう。

渋沢栄一＝文久3年(1863)～明治6年(1873) 高崎城乗っ取り計画～第一国立銀行創立までの、わずか11年間、大変化の時代

栄一はこの間挫折の連続であった。彼は挫折のたびに新しい道を切り開いて行く。新しい変化に、対処して行った。

「論語とソロバン一致を解く」

栄一翁の有名な訓示

明治8年＝頭取

栄一＝35歳

- 銀行業務は言うまでもなくソロバン勘定によって成り立つ。
- ソロバン勘定に夢中になっていると、いつか人の道に背くようなことをしかねない。
- 第一銀行員は、常に人の道を歩け。
- そのためのテキストは論語である。
- 第一国立銀行員は「論語とソロバンを一致させよ。」

◎終焉

92歳＝昭和6年11月11日。王子の飛鳥山にて永眠する。天皇より御沙汰書を賜る。

渋沢栄一の墓誌銘

第1. 道德風教 第2. 経済産業 第3. 実業・教育・女子教育
第4. 社会事業 第5. 資本労働の協調 第6. 国際親善・世界平和の促進

この文章を書いたのは、孫の渋沢敬三。実学尊重の精神。渋沢翁は論語の精神をもって生涯を貫いたということでもあります。

*渋沢栄一は、人の人たる道は論語の「忠恕」――まごころと思ひやりの一語につきると考えた。栄一にとって「富国」は、国民の一人ひとりが幸福になることだった。それが渋沢の国家意識であった。

渋沢栄一の「人間貴晩晴」＝渋沢栄一生誕の地。（深谷市血洗島）現在の母屋の奥の間に架けてあった。

これは、「晩年になって自らの人生を振り返った時に、満足のいくものであり、世の中の人々のために生きられた」という人生を送りたいものだ、と、自らに言い聞かせるために書いたものであり、「またそういう人生を送ることこそ貴い」と、栄一翁が私たちに教えている金言である。

*金言＝日常生活の規範とすべき、立派な言葉。

道德経済合一説

前略――私は仁義道德と生産殖利とはまったく合体するものであることを確信し、かつ事実においてもこれを証拠だてられるように思うのであります。自分の祈念が、真正の国家の隆盛を望むならば、国を富ますということを努めねばならぬ。国を富ますには、科学を進めて、商工業の活動によらねばならぬ。商工業によるには、どうしても合本組織が必要である。しこうして、合本組織をもって会社を経営するには、完全にして強固なる道理によらねばならぬ。すでに道理によるとすれば、その標準を何に帰するか。これは、孔子の遺訓を奉じて、論語による外はない。ゆえに、不肖ながら私は、論語をもって事業を経営してみよう。従来、論語を講ずる学者が、仁義道德と生産殖利とを別物にしたのは、誤謬である。必ず一緒になし得られるものである。中略――今日、私の論語主義の「道德経済合一説」も他日、世の中に普及して、社会をしてここに帰一せしむるようになるであろうと、行末を期待するのであります。1923年（大正12年6月13日）渋沢栄一＝満83歳。 赤坂霊南坂・日本蓄音機商会で録音したレコードより。

◎尾高惇忠の事跡と歴史的背景

*幼少年期

1. 7歳 川越の師範役大川平兵衛に神道無念流を学ぶ。
2. 渋沢宗助（母の実家の人）に書道を学ぶ。
3. 12歳 父と水戸の追鳥狩見学（水戸学に感銘する）。

*中瀬の河岸場について。その役割の重要ポイントを忘れない事。（経済・情報・文化・学問・交通・物流・その他）

4. 15歳 母やへ東の家（渋沢宗助宅）へ帰ってしまう。7人兄弟の長男として母を説得、尾高家に呼び戻す。

*師と弟子

1. 17歳 渋沢栄一（7歳）尾高塾にて学問を教える。（論語の道・論語の里）
渋沢仁山・桃井可堂・菊池菊城
2. 陽明学（知行合一塾学則）
3. 藍香・青淵・雅号について（惇忠29歳・栄一19歳＝藍香・青淵＝信州道中記（巡信記詩）

*養蚕と藍玉

1. 25歳 渋沢宗助発行の養蚕手引抄千百部発行を手伝う。
2. 「藍田は家を興す」と言われた。熊谷市＝宝乗院愛染堂（尾高惇忠の絵馬あり）明治21年3月8日奉納。
3. 特許の取得＝藍の葉（従来水に浸すからお湯に浸すに。）100度c1時間からさらに130度c加熱調節2時間。

*栄一27歳＝パリ親善使節の1員として慶喜の弟（昭武）の随行を命ぜられる。
尾高平九郎見立て養子となる。（渋沢平九郎に）

*彰義隊結成に参加 隊長＝渋沢喜作 後に群馬の天野八郎が隊長になる。

*振武軍結成（飯能戦争）変名使用渋沢喜作＝大寄隼人・尾高惇忠＝榛沢新六郎

*兄弟について

長七郎＝非常手段に反対する。剣道の達人31歳没。（明治元年）栄一等命の人
平九郎＝栄一の見立養子。明治元年5月23日自刃＝22歳（越生の黒山三滝入口）

千代＝栄一の妻

*備前堀事件

明治2年＝40歳＝備前堀 本庄市（仁手取入口廃止）～深谷市（中瀬向島に改める）～反対運動＝尾高惇忠・金井元治・荒木翠軒・桃井宣三の4名活躍
◎訴状作成の中心人物＝尾高惇忠。●訴状を見た民部省の玉乃世履＝尾高の人物を見込み民部省に登用される。

*富岡製糸場の建設（明治新政府・伊藤博文・大隈重信・ポールブリュナ）

尾高惇忠・渋沢栄一・葦塚直次郎＝埼玉県深谷市の人。

渋沢栄一＝富岡製糸場工事主任

尾高惇忠＝初代工場長。所長室＝至誠如神（自筆の書掲げる）41歳～47歳

葦塚直次郎＝2つの絵馬奉納。（甘楽町・笹森稻荷神社）（深谷市・永明稻荷神社）

◎富岡に建設の理由。

1. 原料繭の確保。2. 工場の敷地確保出来、町民も反対せず。
3. 製糸に必要な良質の水が得られた。4. 燃料の石炭が近くで確保できた。（高崎周辺）

*工女募集に苦勞する。工女第1号＝尾高勇 工女取締役＝松村和志（深谷市下手計の人）

*秋蚕の発見 美里町＝秋蚕の石碑あり。深谷市清心寺境内にも秋蚕に関係する石碑あり＝五明紋十郎。大和田健樹。

*明治34年1月2日深川区福住町にて没。72歳。墓＝深谷市下手計尾高家墓地。

尾高惇忠の「至誠如神」＝富岡製糸工場の所長室に掛けてあった。

富岡製糸工場建設に当たり、この精神で工場建設に努力したことがわかる。

＝たとえ能力や才能に劣っていたとしても、誠意を尽くせば、それはあたかも神様のようなものだ。

*堀田鷲五郎親子＝富岡製糸工場建設時に煉瓦と木材の接着剤＝漆喰の考案者。

葦塚直次郎について

父＝尾高家に住み込み「搾油工」として働く。吉見村の久保田熊次郎。天明2年（1782）生まれ。母＝尾高家で住み込みで働く「家事使用人」大田村の武井銀。寛政7年（1795）生まれ。2人は文政5年（1822）結婚。尾高家の家族と同居。文政6年（1823）熊次郎42歳・銀29歳の長男として誕生。葦塚仙之助＝深谷市明戸村（屋号油屋）9反8畝耕作。菜種油を商う。

文政12年（1829）熊次郎48歳。銀35歳。直次郎7歳。葦塚家の養子に。

天保13年（1842）直次郎19歳の時、尾高家に住み込み奉公に上がる。

嘉永3年（1850）直次郎27歳。8年間の奉公を終えて葦塚家へ帰る。

文久元年（1861）尾高勝五郎没。（惇忠の父）＝惇忠32歳の時。

◎尾高惇忠は、葦塚直次郎にとって生涯、兄弟同様にかなる相談も、遠慮なく話し合える間柄であった。

明治4年（1871）富岡製糸場建設にあたり、尾高に呼ばれ、瓦・煉瓦等の一切を請け負いました。製糸場の建設には、煉瓦を輸入に頼らず大量に現地調達する必要がありました。ブリュナの指導により、甘楽町福島で瓦・煉瓦の製造に着手。

「教育の原点は八基村にあり」

— 渋沢栄一翁の心を受け継ぐ
深谷教育について —

萩野 勝正

二月十四日よりNHK大河ドラマで、郷土の偉人渋沢栄一翁の「青天を衝け」が始まりました。そこで郷土の偉人渋沢栄一翁が誕生した八基村の教育に焦点をあて、その背景をまとめてみました。

八基村の誕生は、明治二十二年四月一日、血洗島・上手計・下手計・横瀬・町田・南阿賀野・北阿賀野・大塚の八ヶ村が合併した榛沢郡手計村の名称でしたが、明治二十三年二月二十八日、渋沢栄一翁の命名により村名を八基村と改称します。その根拠は、小字が八地区あった点と、もう一つの理由は、古事記の中で日本の国の古称を大八洲に由来します。大八洲＝本州・四国・九州・淡路島・豊岐・対馬・隠岐・佐渡ヶ島の八つの島の総称。本来の意味は「多くの島からなる国」です。

栄一翁は古事記の大八洲＝日本国という言葉にヒントを得て、八つの小字地区が力を合わせて、大きく発展する基（基礎。根幹。）になることを願いました。

この事は娘の穂積歌子に伝わり、大正四年九月二十八日に制定された、八基小学校の校歌の作詞者は、穂積歌子です。

三番の歌詞に「八洲の国」があります。

八洲の国の 基なる 大御宝ぞ 我が友は 学びはげみて いやましに 里の名高く 一世に挙げん

幕末から明治維新にかけて、八基地区の歴史をひもとくと、近くを流れている利根川の舟運が盛んであった中瀬河岸場の影響で、物の流通や乗客の輸送面でも条件に恵まれていて、大消費地の江戸に近いという地理的好条件もかさなり、血洗島の渋沢一族のような豪農の生まれる背景がありました。

経済的に恵まれた八基地区には、利根川の流れのように学問を尊重する気風が自然にただよっていました。おもな人物をまとめてみます。

北阿賀野の桃井可堂、血洗島の東の家

三代目渋沢宗助（誠室）、渋沢仁山、下手計の尾高惇忠（藍香）他。これらの人物の影響を受けた中から、渋沢栄一翁を生み出す事につながります。

栄一翁の八基村への恩返しは、大正十二年、第一回八基村産業基本調査が行われた時、農政談話会の顧問として後援をしていた栄一翁は、調査書の稿本が来た時に、論語の一節「本立而道生（本立ちて道生ず）」を揮毫。その意味は「根本がしっかり立てば、その先の道は自ずから開けるものだ」という事です。

現在深谷市では、栄一翁の心を受け継ぐ深谷教育ということで、深谷の子「六つの誓い」を掲げ教育の柱としています。立志の精神（夢とところざし）

夢に向かって努力します。毎日勉強します。たくさん挑戦、体験します。

忠恕の心（まごころと思いやり）

すすんであいさつをします。脱いだくつをそろえます。心のこもったことばをつかいます。

以上、夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子。

渋沢栄一翁と養育院(社会福祉について)

養育院とは明治5年に、現在の東京都内の生活困窮者などを保護する網的で創設された公的福祉施設です。その後、精神障碍者の保護、保護者のいない児童などの養育、看護婦、保母（現在の保育士）の育成など事業施設は拡大しました。第2次世界大戦後、養育院福祉施設としての比重を高め、養護老人ホーム、老人専門病院、老人総合研究所などからなる高度で専門的な総合施設として、日本の高齢者福祉をリードする存在となっています。渋沢栄一翁は、その初期から「養育院」の運営に関わり、初代院長として亡くなるまで、その存在・発展・充実に勤めました。「養育院」は栄一翁自身にとっても社会福祉事業への関与の原点です。

栄一翁が深く関わり、現在まで受け継がれてきた其「養育院」の名称は、平成12年（2000年）4月1日の「東京都養育院条令廃止」と同時に消滅しました。しかし、施設は東京都高齢者施設推進室の所管となり、その機能は現在でも最先端を切り開いています。

*養育院の変遷

明治5年に創設された養育院は、東京・本郷・浅草・上野・神田・本所と所在地を転々とし、明治29年から大塚、東京府委任経営、東京市、東京都の管轄へと移っていきました。栄一翁が養育院に関わるようになったきっかけは、明治7年、栄一翁が東京会議の会頭となった後、明治9年養育院事務長に、明治12年には養育院院長になります。在任中、例えば増加する患者のために、看護婦養成に尽力します。明治19年には寄附金に頼らざるを得なくなった養育院を支えるため、東京府養育院慈善会を設立し、明治39年施設の専門分化の実現のため、院資増殖会を設けて、寄付金を募集します。

栄一翁は亡くなる昭和6年まで、初代院長としてその職責を果たし板橋本院を中心として井之頭学校（浮浪少年を感化するための施設）、巣鴨分院（保護者のいない児童を保護する施設）、板橋分院（肺結核患者などのための施設）、安房分院（呼吸器系患児のための施設）などの各施設による養育院の福祉・医療活動は、長きにわたる栄一翁の院長時代に基盤が確立されたといえましょう。

◎松平定信公

江戸後期の幕府老中。徳川三卿の田安宗武の子。奥州白河の藩主。老中の職につき寛政の改革を断行。隠居して楽翁と号す。（和歌や絵画に長じていた。）

天明8年（1788）松平定信を将軍補佐とする。天明9年1月25日寛政に改元。

明治5年東京市の、共有金が養育院の設立資金の原資＝俵約令により方々の町に積立金をさせました。その積立金の残りが、御維新後東京宇市の共有金となって窮民救助に、使われました。

渋沢栄一翁と社会福祉 その2

白河楽翁の遺徳(松平定信公)

渋沢栄一翁が東京市養育院のために試みられた演説の回数は、明治31年3月9日より、昭和6年6月13日に至るまで116回に及ぶ。

毎年祥月命日の5月13日の楽翁祭にはほぼ毎回出席される。演説の時には定信公の、1割の物のうちから3分をとって、7分を積み立てる方法。そこでこの積み金を七分金と通称するようになった。楽翁公は、17歳の時に田安家から松平家に養子になる。松平家の家督を相続されたのが26歳の時であった。老中になったのが30歳の時です。

*田沼に、政治を執らしていたなら徳川氏は、まったく滅亡する、どうしても田沼を罷免しなければならぬということが書いてある。徳川家なり、国家に対して実に憂慮に堪えないことであつた。8代吉宗の後の9代家重は、8代吉宗の後を受けて相当知略のある人であつたが、晩年になると政治を老中に任せて、風流韻事にしたつたように見受ける。ここに、田沼玄蕃頭が、当時の徳川の政治を行うようになる。ほとんど田沼でなければ夜も日も明けぬというような有様であつた。この時に天変地異が発生する。天明1年から6年まで毎年災害が起こつた。

浅間山が大噴火したのがこの時である。そのピークが天明6年(天明の飢饉) ここで幕府の3家すなわち3親藩(尾張・紀州・水戸)が評議をしてついに田沼の役を免ずることになった。天明6年8月のことだつた。この翌年天明7年6月に老中首席となる、直ちに大改革を行う。

*表ばかりの儉約ではなく、大奥にまで儉約を及ぼす。(天明9年1月25日改元～寛政元年)

寛政の改革＝天明7年から寛政5年まで丸7年間善政が行われた。

7分金積立、儉約令他。 田沼時代に深まった幕藩体制の危機を乗り切ろうとした。

江戸幕府 3 大改革の一つ。この改革により幕府の寿命約百年延ばせた。(実際 81 年)定信がいなければ、徳川家は早くに倒れたことでしょ。この事過言ではないと栄一翁は思つたのです。定信公に感服するのは漢学が十分に出来、国学を併せて修めていたことです。

栄一翁は安心立命を論語によつた。孔子の教えを学んで、孔子の教えに服従して、孔子の教えに間違わぬようにしなければならない。

定信公は、国富み、民安んじて政治が順当になることを神様が私にさせてください。庶民が豊かに暮らし得る政治ができなければ、いけないのであります。人力では出来ませぬ。神様に助けて戴くより外はない。

*11代将軍家斉公の7年間補佐役。定信公＝30歳 家斉公＝15歳 2人の年齢差15歳 家斉公＝67人の子があつた。1度も上洛しなかつた。上洛＝京都へ行くこと。家斉公は悪人ではなかつたが、定信公とは気はあわなかつたと思う。

松平定信公は、72歳までの長寿。家斉公の邪魔と別働隊の大奥が、定信公をいぶかつていた。定信公自らこのことを思つて、その職を去られたに相違ない。

明治 44 年 5 月 13 日 東京養育院院長 男爵渋沢栄一

この講演の中で、白河楽翁公のおかげで養育院があることを忘れてはいけなと強調されています。(以上参考資料=白石喜太郎著 渋沢栄一翁)昭和 8 年 12 月 18 日発行

◎社会公共事業 (参考、資料渋沢栄一・事業別年譜 全)昭和 60 年 9 月 20 日発行
社会福祉施設他 別紙、コピー添付 *

塙保己一と温故学会(渋沢栄一・芳賀矢一=国文学者。福井県生まれ。東大教授・国学院大学長。日本文献学を提唱し国文学研究の基礎を作った。)

*塙保己一=江戸後期の国学者。旧姓、荻野。武蔵児玉(現在本庄市)の人。7歳で失明。15歳の時に江戸に出て雨富検校須賀一に入門。のち賀茂真淵らに国学を学ぶ。優れた記憶力により和漢の学に通暁。検校・総検校となる。幕府保護の下に和学講談所を建て、門下に碩学輩出。「群書類従」を編集、さらに「続群書類従」算修着手。◎ヘレンケラー=アメリカの教育家・社会福祉事業家。2歳の時盲聾啞となったが力行して大学を卒業。身体障害者の援助に尽くす。3度来日

日本のナイチンゲール(瓜生岩子)

福島県喜多方市の生まれ。文政 12 年(1829)

渋沢栄一翁から請われて、東京養育院の幼児世話係長を約半年間務めた後、帰郷し、岩子の助言により会津各地に次々と育児会や産婆研究所が設置されました。さらに、岩子は、会津若松に生活困窮者のための私立済生病院を開設しました。この病院で野口英世は書生となり、英世の母シカも働いていました。その後、シカは、英世が渡米した後、読み書きの勉強に励み、岩子の斡旋により 50 歳を過ぎてから産婆の資格を取り、66 歳で亡くなるまでに2千人以上の赤子を取り上げています。「私の家は貧乏で、いつも皆様に御迷惑をかけていましたから、お礼などいりませぬ。ほんのおぼしめしだけで結構です。」と言って生活の苦しい人からは、お金を取らなかったそうです。

東京・浅草寺北側の公園や、福島県下各地に瓜生岩子の顕彰碑があり、母の菩提寺(示現寺=喜多方市熱塩加納町)にある瓜生岩子の墓碑は、渋沢栄一翁の書によるものです。

*17歳で結婚した岩子は、夫と死別、子供と共に残され、嘆き悲しんでいた時、母の菩提寺の隆覚和尚から「お前にはなすべき事があるのではないかと諭され、恵まれない人々、子供達のために一生を捧げようと心に誓いました。

◎ナイチンゲール

イギリスの看護婦。クリミア戦争に際し多くの看護婦を率いて傷病兵の看護に当たり、「クリミアの天使」と呼ばれた。看護学校を創設するなど、専門的看護教育を創始。

郷土の先人 尾高惇忠 至誠如神

私もそう思いました。決して人に迷惑^{めいわく}をかけたつもりはない。にもかかわらず、どうして私はこんな目に遭^あうのかという思いに駆^かられたことがありますけれども、しかし、今になってみると、それは一つ一つ、すべて私の人生をよくするためのセレモニーであつたように思います。あと一月で私は六十四歳を迎えます。これまで本当にいろいろな目に遭^あつてまいりましたが、それが本当に私の今日までの人生をよくするための通り道でした。

ですから、皆さん方もこれから幾^{いくばく}ら誠意を持って生きていてもいろいろなことがあると思いますけれども、これはすべて自分の人生を鍛えるための通り道だと思つて受けとめていただきたいと思います。

至誠神の如し

最後に、私が去年学んだ、学んだというより、本を読んでいて、ああ、これだと思つた言葉を皆さんにご紹介して終わります。

これは群馬県にある富岡製糸工場の初代工場長になつた尾高惇忠^{おだか じゅんちゆう}という方の

言葉でございます。

至誠神^{しせいしん}の如し、たとえ能力や才能に劣つていたとしても、誠意を尽くせば、それはあたかも神様のようなものだ。

才能のある人はどうしても才能に寄りかかりがちで、自分の才能がこんなにあるんだということ、それにおぼれがちでございます。たとえ才能があつても才能が仮になくても、素質があつてもなくとも、たとえそれがどんなに小さくても、誠意を尽くせば、その尽くしている姿そのものが神様と同じ、神の如しということでございます。ぜひこの言葉を、きょうこれ一つだけ覚えて帰つていただき、そして何か事あることに至誠神の如しというふうに思い出していただけたら、きょうこうして皆さんの前に立たせていただいた私のかいがございます。

長い時間、どうもありがとうございました。(拍手)

深谷の子「6つの誓い」

～渋沢栄一翁の心を受け継ぐ深谷教育～

夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子



立志の精神(夢とこころざし)



忠恕の心(まごころと思いやり)



3×5
4÷2



夢は、人生を豊かにします。目標を立て、日々努力し、「こころざし」としてかがやいていきますよう。

夢

真剣に授業にのぞみ学び合うなかで、学力は定着します。家庭でも計画を立てて、毎日学習をしましょう。

毎日勉強

実際に身をもって学ぶことで、新しい発見ができます。今までやっていなかったことにも挑戦し、体験を広げていきましょう。

体験



あいさつは、社会生活の基本です。「おはよう」「いってきます」「だれにでも、気持ちよく、笑顔で元気にあいさつをしましょう。

すすんであいさつ

くつそろえば、気持ちを整えることにつながります。自分めくつばもちろん周りのくつも、そっとそろえてみましょう。

くつそろえ

「ありがとう」「どういたしまして」「ごめんなさい」「大丈夫です。支え合い、助け合い、人への思いやりは、温かい言葉となって表れます。ことばを大切にしましょう。

心のこもったことば

渋沢栄一翁と紙幣の話

その巻

荻野勝正

私の手元に、昭和八年十二月十八日発行の「渋沢栄一翁」の本がありますので、この本を参考にして、明治の紙幣発行までをまとめてみます。著者は白石喜太郎氏です。

令和元年四月九日の財務省の発表で、五年後の一万円札に渋沢栄一翁の肖像採用が決定されていますので、栄一翁が明治二年十月に新政府より出京を命じられて、同年十一月に租税正に任ぜられる。ここから話を進めていきます。

明治二年十二月、「従前当幕府の許可を受けて諸藩の製造せる紙幣は、以来其数を増益すべからず、宜しく其製造総高を取調べ、三年二月までに大蔵省に届け出すべし。且つ御一新後府藩県にて紙幣を製造せるものは、以来其通用を停止すべし」との布達を発して、当幕府の許可を得ずして発行したもの、並に維新後増発したものは、共に公正のものとして認めざるの意を明らかにして、其消却処分を促した。藩札の種類も、金札、銀札、米札、永札の外、大小品目多種多様で、合計実に千六百九十四種。この紙幣は、諸藩及び旗本が、各自の責任を以て発行したもので、回収消却もまた、これら責任者の負担に属し、中央政府の関与すべきも

のにあらず。しかしながら、これを徹底的にすることの不可能なることは言うまでもない。ここに新政府当局の苦心があった。明治四年薩摩藩の断行。

ここで栄一翁がその始末に努力することになる。明治四年七月十四日、太政官布告「七月十四日の相場を以て、追って御引換相成候條、比旨兼て可相心得事」翌七月十五日、大蔵省より諸藩に次のように達した。

(藩債始末) 幕府の時代財政の窮乏に苦しみ、藩札を発行したり藩債を起しあるいは租税の前納を命ずるなどしていた。中味についても金銭あり米穀あり、その名称、種類殆ど枚挙にいとまない程であった。借入償還の方法並にその期限とも各藩の随意であつたから統一性がなく、さわめて煩雑を極めた。この状況を確認して栄一翁の定めた当藩債処分の方は、借入た年代順にその規則を適用するようにした等。

①天保十四年以前の借入金穀の類は金債に立てざる事。②弘化元年より慶応三年の借入金穀の類は公債に立て、昨五年より無利息五十カ年賦にて償還の事。③明治元年より五年までの右同断の類は公債に立て、明治



五年より二十五年賦、元金三年据置、年四分の利息を附して償還の事。(中略)
④明治二年六月藩々版籍奉還後、私人の借入金は公債に立てざる事。⑤当藩士の借財、藩庁へ引受の証拠ある分は、公債に立てる事。
⑥米穀は各地方明治五年三月の平均相場を以て金直しの事。
以上の規則によって、日本全国の統一された新札発行前の環境整備を実施する。

渋沢栄一翁と紙幣の話

その巻

荻野勝正

前回で新札発行前の環境整備実施の規則についてまとめました。

明治四年五月十日、「新貨條例の公布」。この条例により単位を円として、円以外は銭、厘と定め全部十進法による現在の制度が確立する。「貨幣規則」とともに、栄一翁の立案起草によるものである。続いて制定された「造幣事務取扱規則」「正貨試験分析定則」もみな栄一翁の手を経たものである。こうして栄一翁は、大阪の造幣寮に接触を生じて、その関係から、明治四年六月命を受けて大阪に出張した。

この時の気持ちを栄一翁は、談話の中で「日本の将来の経済を考案してみるに、このまま政府に於て、如何程心を砕き力を尽くして貨幣法を定め、租税法を改正し、会社法または合本法の組織を設け、興業殖産の世話をしたとて、今日の商人では、到底日本の商工業を改良進歩させることはできないであろう。就てはこの際自分は官途を退いて身を商業に委ね、及ばずながらも率先して、日本の商業に一大進歩を与えようという大望を起し、大隈重信、伊藤博文の二人に自分の気持ちを吐露して辞職の旨を相談したが、二人からは大蔵省に於て甚だ差支の筋があるので今少し見合わせろと言う返答であつた。

談話から、栄一翁の心の中に、一日も早く政府の役人を辞退して、日本

経済発展のために商業に力を尽くす心構えがしつかり出来ていたことがうかがえます。

明治四年四月、栄一翁は大蔵大丞で紙幣頭も兼ねていたので、六月十一月にかけて、一円、二円、五円、十円、二十円これら五種類の紙幣の発行。紙幣の図案は栄一翁の定めたところであつた。この文章を読んでいて栄一翁の定めた図案で当時の紙幣の図が決定していたことに気づいて私はビックリしました。

新札図画について、大政官が「写真模様の儀は、人物等相除き、却て景色の方相用可申事」と指令されていたため、栄一翁が紙幣の図案についていかに苦心していたかが推察できます。紙幣の図画の件は結局景色、風俗、歴史に関する図柄を採用するに至る。

この他郵便切手、蚕種印紙を始め、各種の切手、印紙等の製造印刷は、一々海外に仰ぐ状態であつた。このことが後に栄一翁が製紙を営み、且つ印刷に携わらなければならぬと主張するに至つた。後の王子製紙会社につながり、栄一翁は製紙業の生みの親となつたのです。さらに大蔵省の帳簿を大福帳式から簿記に改めたのは栄一翁の知識と伊藤博文の調査に基づいて立案したものです。

栄一翁の主治医林正道氏は「大蔵相時代の子爵の活動は、恐らく先生一生中の最も油のつた時代であつて、まさに三面六臂の御精勵振りであつた」と語っています。

新一万円札の図柄は、渋沢栄一翁の肖像が決定しているの、今から発行されるのを楽しみにしています。

